**アドバンスドツリークライマー試験内容**

改定：2020/3/2

|  |
| --- |
| **ギアチェック・インスペクション**・受験者は下記のギアを持参する。・劣化、損傷が激しいものは試験に使用できない。・ギアの数が足りない場合や、忘れた場合は試験を受けることができないので注意して準備すること。・持参したギアの強度や保管、点検のポイントなどについて説明を求める。口頭により回答を要する。・使用可能ギアはレクリエーションで認められているものであれば、下記以外の物も使用することができる。また下記数量以上に使用することもできる。（いずれも申告が必要）　ただし個々の試験科目で規定されている場合は制限する。□ ツリークライミングサドル　　□ ヘルメット　　□ MRSロープ2本（120ft以上）　　□ トリプルアクション以上のオートロックカラビナ4枚　　□ フリクションセーバー2本（うちリングセーバーは1本以上）　　□ フットループ　　　□ ランヤード　　　□ エイト環　□ スローライン2セット以上　　□ レスキュー時のブレイクスコントロール用具（プーリー、プルージックループ、デイジーチェーン等）　　□ ツリーボート　　□ ボート延長用ロープ30ft程度（クライミング兼用不可）　　□　ボート延長用カラビナ2枚以上（クライミングと兼用しないことが望ましい） |
| **スローライン**・スローラインのスロー回数は練習２投まで、本番５投までとする。ハンドスローに限る（射出器具を使用しない）・練習スローは試験の対象とするが、アンカーに入っても得点にはならず、練習終了後に回収する。練習は行わなくても良い。・概ね手の届く高さでコントロールされている場合は、申告すればスローバッグを投げても作業とみなし、スローの回数には含まない。〔例：内包の除去作業時に、試験官に申告してスローバッグを股の向こう側へ投げる。〕・あらかじめ設定されたアンカーポイント２ヶ所にスローラインをセットする。それ以外はポイントにならない。・同じアンカーポイントには複数回設置しても得点は１回分のみとする。・２ヶ所のアンカーポイントは、Ｈｉ12～14m（９点）とLow8～10m（６点）とする。２投目以降は１投毎に減点される。・MRSをセッティングできる状態にしなければ得点とはならない。枝が内包した状態では認められない。　セッティング可能な状態になっていれば、その部分以外のスローラインは他の枝にかかった状態でも良い。・アンカーポイントのマーキングより内側（マーク上を含む）であれば、股の最深部でなくても良い。スローライン操作のみであれば修正を行うことができる。・スローラインのポイントが認められた１ヶ所を、フリクションセーバーを使用してMRSが使用可能な状態にロープセットを行った場合は加点する。（５点）　使用するアンカーは２ヶ所のうちどちらでも良く、ロープ両端を同時に地面に接地させるのみで良い。・スローバッグ、スローライン、ロープ、フリクションセーバー等、すべて使用数に制限なし。但し、同時に使用できるスローラインは２本までとする。（地上にあるラインは本数に含めない）・制限時間は、試験官の開始合図から10分までがスロー可能時間とし、20分までにスローラインとロープのセッティング行う。スロー可能時間の終了は試験官より合図がある。・樹上のギア類の回収は上記20分に含めないが、試験開始から25分以内に樹上にギア類が無い状態にする。樹上にギア類が残っている場合は失格とする。・１スローでスローライン操作により、複数アンカーを取ってもよい。（１スローとカウントする）・規定のアンカーポイントに直接入らなかった場合でも、スローライン操作により修正・セッティングを行うことができる。・スローラインセット・ロープセットは、試験官の確認を受けることによりポイントとなる。・スローコールが無い場合およびスローバッグのみが飛翔した場合は失格とする。 |
| **アドバンスドツリークライミングスキル**・あらかじめ設置されているスローラインを使用して、MRSロープセッティング、クライミング、樹上にて2ndアンカースロー＆MRSセッティング、2ndMRSへ切り替え、ベル鳴らし２カ所を行う。ベル鳴らしの過程でリムウォクも審査する。クライミングダウン、クリーンアップまでのすべてを行う。・ベルを鳴らす順番を指定する場合がある。（指定の有無は、試験日のインスペクションにて指示する）・1stMRS用ロープと2ndMRS用ロープを別に用意すること。・1stMRSアンカーはリングセーバーとする。1stMRSはベル鳴らし等トランズバースには使用しない。・2ndアンカーポイントは、指定されている場合と指定されていない場合があり、指定された場合はそのアンカーポイントしか認められない。（指定の有無は当日のインスペクションにて指示する）・樹上でMRSセッティング後、そのMRSが地上までクライミングダウン可能か確認する必要がある。・樹上での作業時（スロー・ロープセッティング・ベル鳴らし等）は、ランヤードで安全を確保し体の安定を保つ。・1stMRS ⇔ 2ndMRSの切り替え時に、ランヤード等のバックアップがない場合は失格とする。・ロープの傾きが45度を超える（45度より水平に近づく）と、試験官の判断により、1回目は警告（-10点）、2回目は失格となる。・基本制限時間は試験官の開始合図から、男性30分、女性40分とし、クリーンアップ完了までを行う。　ただし環境により制限時間の変更あり。またクリーンアップは、あらかじめ設置されていたスローライン以外のものが、樹上に残っていない状況であれば完了と認められる。・制限時間の5分超過までは続行可能（-５点）。　この間にすべての内容を行う必要があり、行えなかった場合は失格となる。・ロープ撤収時のロープ落下は減点となる。・使用するギア数は制限しない。ただしレクリエーションで認められたものに限る。 |
| **ツリーボート**・あらかじめセットされた２つのMRSを使用する。・MRSのチェックやノットの調整後に、試験官の合図から試験開始とする。・指定の樹木間で、高さ（3～5ｍ）の位置に1人でツリーボートセッティングを行う。・試験開始後であれば、あらかじめセットされたロープ以外のロープをセッティングしても良い。・ボートの固定は、一方は付属のストラップ、もう一方はロープによる延長とする。・ロープ延長の方法は、MRS2に記載の方法とする。（MRS2で指導している方法で行う。ダブルフィギュアエイト固定は用いない）・試験時間は試験官の開始合図から30分とし、時間内にセッティング完了を受験者から試験官に報告する。　（完了報告は樹上でも可）　迅速な作業には加点をする。・ストラップの固定はターンバックルの中を通した後、ハーフヒッチして末端処理を施す。・ツリーボートは、水平になるようセッティングする。・ツリーボートは試乗して、弛み等を確認することが望ましい。 |
| **ツリーレスキュー**・樹上約5ｍに要救助者が居り、あらかじめセットされたスローラインを使用し、MRSによりハグレスキュー （自分と相手のブレイクスをコントロールして降りる方法）にて救助を行う。・制限時間は、試験官の開始合図から15分とし、救助した要救助者のカラビナを外して、完了報告までとする。　（要救助者を地上で搬送できる状態にする。）　安全かつ10分以内の救助完了は加点する（+２点）。・要救助者の疾病受傷状況に沿った救助活動を行う。・レスキュー開始時には、樹木や周囲の安全確認を行う。（試験官にその行動が判る様に告知する） |
| （ツリーレスキュー　つづき）・受験者はビレイの他、必要な事柄を周囲に指示する必要がある。・受験者がアシスタント役に指示をして行ってもらえる行為はビレイのみ。（要救助者の引き寄せなどはできない）・ビレイの操作は詳細に指示をする必要がある。（いつ、どちらをビレイするか・速さ・作業位置など）・受験者はクライミング時のセ－フティーノットを作らなくても良い（迅速性の重視）。ただし救助作業中は必要。・アシスタント役は１名とする。・要救助者の安全確保に努める。（特に頭部）・急激な降下は減点。墜落に至るような危険行為や、毎秒50ｃｍ以上の急激な降下は失格とする。　　（アシスタント役が、指示通り作業できなかった場合はこの限りではない。） |
| **【全体注意事項】**・各試験項目において、樹木と樹木周辺の安全確認を必ず実施すること。・器具愛護と事故防止に努める。（ギアの踏みつけ等は故意でなくても減点。カラビナのゲートロックの確認は必須）・各試験項目の配点は次の通り。それぞれが合格点数に達していない場合は不合格とする。　スローライン20点（合格点12点）・ツリーボート20点（合格点12点）・ツリーレスキュー20点（合格点12点）・アドバンスドツリークライミングスキル40点（合格点24点）・参加者同士での技術相談禁止、他の参加者の批判禁止。・試験官に抗議をした場合は失格。・ギア他、物を落下させた場合は失格。ただし、インジャリーフリー※の物はその限りではない。・試験開始後は終了まで試験フィールドを出ることはできない。（トイレ、忘れ物を取りに出るなどはＮＧ）・試験中の質問は認めない。ただし、時間はいつでも聞くことができる。（試験官は経過時間を返答する）・レクリエーショナルツリークライミングで認められたギア・技術（MRS1～3）のみで行う。・制限時間内に完了しない場合は失格。ただし、スローラインはギアの回収が完了していれば失格とならず、制限時間内の点数が認められる。・必要と認められる場合は、試験管の判断で時計を止め試験を一時中断する場合がある。・失格となる場合であっても、試験を続行する場合がある。・オフロープは試験中止かつ失格とする。（ロープにテンションが掛かっておらず、１m以上の落下が予想される場合も含む）・ロープの傾きが45度を超えた（45度より水平に近づいた）場合、試験官の判断により、1回目は警告（-10点）、2回目で失格となる。警告の場合は安全な状態まで戻ってやり直す。警告の前に自己申告し、やり直せば警告とならない場合もある。・樹木の損傷は、折れた箇所の径10mm未満減点なし、10～25mmは-2点/本 減点、25mm以上は失格とする。・必要なコールが、適切なタイミングでない場合や試験官に聞こえない場合（必ず試験官のコールバックを受ける）は減点とする。ただし、スローコールがない場合は失格とする。・動作は確実に試験官に伝える。試験官のコールバックによりポイントとなる。・樹上で何らかの作業をする時は、セーフティーノットならびにランヤードを使用する。・MRSのカラビナ接続部はダブルフィッシャーマンズループとする。※インジャリーフリー：ケガの可能性が極めて低いもの　　　　　　（スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティーグラス等。ペンはインジャリーフリーではない） |

TREE CLIMBING® JAPAN

**ツリークライミング®ジャパン**

　　〒480-1201　愛知県瀬戸市定光寺町323-4

Email info@treeclimbingjapan.org/　ＴＥＬ：0561-86-8080　ＦＡＸ：0561-86-8580